

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470502026		
法人名	社会福祉法人 呉 同 済 義 会		
事業所名	グループホーム 温 養 院		
所在地 (電話番号)	呉市焼山中央6丁目6-13 (電 話) 0823-33-3858		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成 20年 6月 5日	評価確定日	平成 20年 6月19日

【情報提供票より】(20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋平屋造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円
敷 金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木医院・灘田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

呉市郊外の静かな緑に囲まれた広い敷地の中に社会福祉法人呉同済義会グループの諸施設があり、グループホーム温養院もその中の一つである。
 「地域に密着した家庭的な生活を！」を介護目標に掲げ、管理者以下、みんなで考え、みんなでやってみる、笑顔を大切にされたケアが心がけられている。職員・利用者が一緒に料理・園芸・掃除など、お互いに助け合いながら明るくゆったりとした毎日を過せるよう取り組み、運営されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回指摘の要改善点は①推進会議②市との連携③食事④災害対策であった。③を除いては順調に改善がすすめられている。「一緒にの食事」に関しては前向きな取り組みを期待したい。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義はよく理解され指摘された事項は職員に説明され改善計画を建ててサービスの質の向上に役立てるよう取り組まれている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に運営推進会議を開催し、市の関係者、自治会長、包括センターの職員、家族の代表に出席してもいい、ホームの現状を報告、災害対策、ノロウイルス対策などの議題を取り上げている。また、会議の意見や助言はホームのサービスの向上に活かしている。外部評価は目につく所に掲示されている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者やホームの近況は毎月、写真・手紙と機関紙を送付して知らせるようにしている。またご家族の訪問時にはできるだけ詳しく報告するようにしている。要望や意見は第三者機関の受付窓口を含めて明記されており、ホーム内にも意見箱を設置して気軽に意見や相談が出来るように配慮されている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事に積極的に参加し、又保育園や小・中学校の訪問を受けたり行事に利用者と一緒に参加したり、地域の方々との交流を深めている。機関紙「ひだまり」も定期的に発行され地域との交流に役立っている。
	⑥	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者が毎日を家庭的な雰囲気の中で安心して暮せるように地域との交流を重視した独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図るため玄関の目に付く所に張出すと共に日常のミーティングや毎月の全体会議で繰り返し徹底し、共有化をはかり、日常のケアに活かすようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	機関紙「ひだまり」を発行すると共に地域の行事や保育園や小・中学校の行事などに利用者と共に地域の一員として積極的に参加し交流を深めている。また、ホームに来てもらうなど、自治会との交流行事も行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義はよく理解され指摘された要改善点は全員がよく見える所に張り出され、改善計画を建て実施に取り組み、サービスの向上につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に自治会長・包括支援センター・家族代表等の構成で開催されホームの現況を報告、災害対策、ノロウイルス対策などを議題に取り上げている。また、会議での意見や助言をホームのサービスの向上に活かしている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スタート当初より市との関連は強く、市の相談員の定期的来訪があるなど市や地域包括支援センター・地域相談センターなどとの連携は強い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者やホームの近況は毎月の手紙や機関紙を送付して知らせている。また、ご家族との面会にはできるだけ詳しく近況を伝えるようにしている。その他、必要に応じて電話連絡するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や苦情は重要事項説明書に第三者機関の受付窓口を含めて明記するとともにホーム内にもご意見箱を設置し、気軽に意見・相談が出来るように配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は退職者の補充以外最小限におさえているが、このところ退職者が続いた。古手の職員が意識して声掛けを行なうことで、利用者へのダメージを最小に抑えることができた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の資格取得や育成指導に努め又内外の研修にも積極的に参加を呼びかけて受講させるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で一緒になった同業者との交流や見学の受け入れは行なっているが、本格的な交流とは言えない。	○	地域同業者との交流の機会をつくり、相互訪問や勉強会を行なうことで、更にサービスを向上させて行く取り組みが期待される。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームに早く馴染めるように訪問・見学・体験入居(3日)などをしてもらい、ご家族と相談しながら工夫支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の先輩として利用者と接し職員と一緒に買物・散歩・料理・掃除など出来る事は手伝ってもらい和やかな雰囲気の中で毎日の生活を過している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で利用者の希望や意向を把握すると共に家族の方からの情報を参考にして出来るだけ意向に添えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族・関係する職員で充分話し合いケアプランを立てている。 利用者の状態の変化のある場合はその都度変更訂正している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っているが利用者の日頃の生活状態をよく観察し状態の変化や家族の要望があればその都度介護計画の見直しを行っている。		介護計画で取り上げた課題を一定期間毎(毎日か毎週)にチェックしてゆける仕組みづくりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じ、プライベートな買い物や里帰りなど可能な限り柔軟に対応している。また、併設のデイサービスセンターのレク活動などにも参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関又は利用者やご家族の希望するかかりつけ医療機関への受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に応じてカンファレンスを行い併設医療機関や家族の方との連携をとり話し合い、了解の上で対応策を決めるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して慣れてしまいぞんざいにならぬよう意識向上に努め、誇りを傷つけないように注意している。個人記録は鍵の掛る戸棚に保管されている。写真掲載も了解を得て行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の行動を職員の都合やホームの決まりで行うのではなく、利用者のペースを大切にして、ゆったりと過せるように心掛けている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・盛付・片付など職員と共に和気合々で行っているが共に食事を取る事はなく職員は見守介助に終始している。	○	週1, 2回でも、利用者と共に同じ食事を職員も取れるように改善される事が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向習慣を尊重して無理強くないく何時でも入浴出来るように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なこと・出来ることを楽しみながら発揮出来るように、日々の調理の手伝い・洗濯物のたたみ、園芸・おやつ作り・手工芸など行ってもらい各人の出番があるように心掛けて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出用車両を保持し利用者の希望があればドライブ・買物など臨機応変に対応している。又、日常の散歩なども盛んに行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠する事の弊害をよく理解しており夜間以外は施錠することなく常に見守を重視した支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡網やマニュアルは整備され併設の特別養護老人ホームとの合同防災避難訓練が年2回行われている。 地域には口頭で協力依頼をしている。		グループ内の防災訓練の他に災害時地域連絡網など、地域の協力が得られる関係づくりも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー栄養士によってチェックされている。食事量や水分摂取量は把握され記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間であるホールの壁などに利用者と共に作った季節感ある貼り絵や生花などが飾られている。又適度な室温と静かな環境が保たれていて居心地よくゆったりと過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使っていた家具などを持込み、又家族の写真などが飾られ居心地の良い空間が作られている。部屋も清潔に保たれている。		

NPOインタッチサービス広島

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所全体としての理念がある。		地域の方々との交流の一層の促進
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	掲示し、実践にむけて進むよう心がけている		理念に基づいた個別ケアの充実
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関入り口に掲示し、来訪者・面会者に見ていただけるようにしている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	夜間以外は出入り口を施錠せず、散歩等に出かけ交流を持っている。又、機関紙の配布も行なっている。		外出の機会を多く設け、地域交流を進める。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	盆踊りや地域小中学校運動会への参加、自治会との交流行事実施。		広報誌の定期的発行、交流行事参加継続。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	機関紙を発行しその中でのお知らせ事項等の掲載を行なう。		気軽に来訪し、相談を受けられる雰囲気づくり。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年1回の自己評価、外部評価を受け、その活用。		意見箱の設置
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的実施している。	○	サービス向上につながる内容の会議として進める。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町担当者ではないが、市の介護相談員の定期的来訪があり、意見交換をおこなっている。	○	意見交換の機会をつくる方策検討
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会に参加促進する。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者による全体会議等での防止徹底指導、マニュアル遵守。		研修等により、学ぶ機会をつくる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明・話し合いを行なっている。		ご利用者・親族に分かりやすく、丁寧に説明する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見箱の設置、ご利用者との懇談会の月1回の開催。		職員はご利用者の話に常に傾聴する姿勢を持つ。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	機関紙の発行、送付。必要に応じ随時連絡をとる。		家族の要望を出来るだけ受入れる姿勢を持つ。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置し面会時、電話連絡時等に聞き取りを行なう。		定期的アンケートを実施する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、ミーティングの実施		会議内容の充実
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	平均的な体制がとれるよう調整を行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者の補充以外は、最小限としている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内外研修会の参加促進を行なっている。	○	介護福祉士資格取得促進。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現状、行なわれていない。経営法人の種類も異なり、難しい面がある。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	労働衛生委員の設定、委員会定期的開催。産業医の意見・助言を受ける。	○	職員親睦会等の行事参加促進し（旅行・交流行事等）ストレス軽減に努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	適切な管理・状況把握に努める。		適切な人事考課制度導入、給与規程変更の検討。
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前面接実施、体験利用の実施		ご利用者の実態把握、家族意向の理解・確認。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学に来所いただき、説明と意見・要望の伺い。		色々なケースに対応できるようにする。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者にとってなにが必要か、サービスの内容優先順位を検討する。		スピーディーに対応可能な体勢づくり。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験利用を実施している。		徐々に環境変化に慣れていただけるよう配慮する。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	料理・掃除等家事を共に行っている。		ご利用者の得意分野を探り、その機会を提供する。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	必要に応じ家族連絡をとり、対応ベストを話し合っている。		定期的近況連絡を行なう。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	差し支えのないよう家族よりお話を伺い、必要に応じ仲介をとっている。		電話内容等に配慮し、トラブルとならないよう注意する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的連絡、広報誌等の送付。面会の促進 地域交流サロン等の活用。		入所前の居住地への訪問等
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者の行動等の観察を行い、トラブルの要因の減少を目指す。ご利用者共に活動する機会を多くする。		ご利用者同士の関係を活かしたケア。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	定期的連絡、広報誌等の送付。面会の促進		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に話す機会を持ち、出来るだけ意向に添えるように努める。		意向に添えることが困難な場合は、相談、カンファレンスを行い検討する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所にいたる経緯、その後の生活状況等個人ファイルに記録している。		コミュニケーションを図り、より深く情報を得るよう心がける。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員会議、ミーティング等で個別ケースとして話し合うと共に記録している。		その都度気づいた時に、コミュニケーションノートに記録するようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意向に添った自立支援に向けたケアプランを策定し、緊急性のある場合はその都度変更策定する。		日ごろからの詳細な観察を行い、プランに活かす。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しの要があると判断された場合、適宜に実行する。 又、期間終了時にアセスメント実施し、見直しを行なう。		状態の変化、ご本人・家族の意向反映を目指す。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	カンファレンスに際しては、ケースファイル等活用し策定する。		細かな観察と記録
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設デイサービスセンターのレク活動参加		併設施設との連携、活用
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	市民センター実施の地域交流サロン参加。 傾聴ボランティアの来訪		ご利用者の特性、意向、必要性等の把握

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	隣接デイサービスの利用。(レクリエーション入浴サービス) 地域インフォーマルサービスの利用。		今後、意向や必要性に応じて対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	おこなっていない	○	今後、意向や必要性に応じて対応していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	支援できている。(協力医療機関、及びご利用者・家族の希望医療機関)		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じての対応体制が可能。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設特別養護老人ホームの看護職による緊急対応可能。		平素より医療部門との連絡、報告、相談体制確立を目指す。
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院時の付き添い、連絡等連携を取っている		入退院時の適切な対応

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	併設特養の医療部門、家族と連携をとり早期対応を行なう。		必要に応じカンファレンスを行なう。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の変化に応じた対応、連絡等を行い、家族の意向を踏まえ、医療部門との連携をとる。		必要に応じカンファレンスを行なう。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	ご本人、家族、からの情報収集につとめ、環境変化に適應していただく方向性を見出す。		家族からの詳細な情報収集
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 </div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重 </div>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人ファイルは施錠できる保管庫に納めている。 プライバシーに関する対話は個々に行なっている。		法人個人情報保護規程に基づく職員意識、対応の徹底。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	選択の機会が多くあるよう心がけている。		色々な場面・状況で自己決定できるよう援助する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	強制、無理強い等することなく自発的に何事も行なえるよう支援している。		ご利用者の本意はどこにあるか、言動・行動等により判断出来るようにする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	事業所出入りの事業者を利用。家族との外出促進。 身だしなみの日を設定、理美容等整えられるよう支援する。		ご利用者の好み、意向の把握と提供
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備・片付け、盛り付け等職員と共におこなっていただいている。 食事を共にすることは検討事項。	○	ご利用者と共にティタイムを楽しむ。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご希望により、買い物等の外出を行い、職員が摂取量を把握するなかで、お楽しみいただく。		希望時に対応できる体制づくり。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、誘導・声かけの実施。 必要な排泄パッド等使用している。		排泄不調により、ストレス等がたまり不穏状態にならないようにする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご自身の意思でいつでも入浴できるよう準備・声かけを行なう。		無理強ひなく入浴を楽しんでいただく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の生活ペースに合った休憩・日昼寝等で休んでいただく。		ご利用者の心配ごと、気になること等を把握し、取り除いていけるよう支援する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、園芸、おやつづくり、手工芸等余暇活動を行っている。		職員の担当、役割分担
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の支払については、各ご利用者に合わせた支援としている。		各ご利用者に合わせた支払場面の設定し、援助する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出用車両を保持し、臨機応変に対応出来る様にしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年間行事として、花見・遠足(春、秋)等企画している。		誕生日に職員と共に外出する(希望地)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話設置		自力で通話、通信不能の方には介助する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	出入り口は施錠することなく、ロビー、各居室等面会可能		気軽に訪問できる雰囲気づくり。

(4) 安心と安全を支える支援

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止の真の目的・意義を職員正しく理解し 拘束に対する禁止意識の徹底を図る。		研修会等の参加により認識・理解の徹底を図る。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠していない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は見守りと安全保持。夜間は定期的巡回		ご利用者が不快感を起こされることのないような見守りへの配慮。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員間でよく話し合った上での管理に努めている。		針、ナイフ等ご本人が管理不適なもののは事務所で管理し、必要時に見守りの中で使用していただく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットの事例に学び、見守りの中リスクマネジメントに努める。 防災避難訓練の定期実施。		ご本人の意向重視の生活の中での安全保持、自立助長に努める。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	職員研修の参加。定期訓練実施は行なわれていない。		応急手当等の事業所内研修の実施。 参加職員の不参加職員への伝達研修の実施。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設の特別養護老人ホームとの合同防災避難訓練を行なっている。 地域については、口頭での協力依頼している。	○	地域の方の協力が得られるよう、具体的方策をたてる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	必要に応じ連絡をとっている。		本人の状況等を詳細に連絡し、家族の理解を得られるよう努める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	連絡ノート、個別ファイルに記録し、経過観察に努めている。		小さな変化に気づく観察力を身につける。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	やや不十分。	○	医務、看護部門と連携をとり、理解するように取り組む。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個別摂取品に工夫している。 散歩、体操等個別に心がけをしている。		各ご利用者に合わせた運動料、摂取量の理解。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個別に食後口腔ケアに勤めている。		ケアに抵抗のある方への方策の検討。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量の把握、色々な飲み物の提供 代替食の提供		飲み物は定時提供と随時提供と平行して行なう。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに添って実行している。		職員の対応マニュアルの理解徹底
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は特養調理室より提供を受ける。食器乾燥機使用 台所は夜間消毒を行なう。		安全な保管法の徹底（常温・冷蔵・冷凍）
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには花を置く。冬を除いて日中は玄関開放。		気軽に出入り可能な雰囲気づくり。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の植物・花を飾っている。適度な保温と静かな環境づくり。		トイレを常に清潔に保つ。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングチェア、食席等好きな場所で過ごしていただく。		畳でくつろげる場所づくり。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安全に活動できるスペースを保持した上で、私物の持つ込み可能。		各ご利用者の意向に添った配置、装飾の工夫。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的換気、エアコンにより適温保持、ご利用者の衣服着用により体温調節管理。		徹底した個別対応。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアリーに配慮した物品配置、異動観察		下肢機能の維持（適当な運動料保持）
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個別に理解可能な方策の検討・考慮・実施 失敗につながる要因の除去		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑、花壇での園芸作業、ブランターへの植樹等の実施		できるだけ収穫できるものを、結果が表れるものを対象に活動する。

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② ○利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② ○数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ ○利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 〇家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ 〇たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 〇少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① 〇ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① 〇ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 〇家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目